



2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年8月14日

上場会社名 株式会社 ヤマノホールディングス 上場取引所 東
コード番号 7571 URL <https://www.yamano-hd.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 山野 義友
問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員管理本部長 (氏名) 岡田 充弘 TEL 03-3376-7878

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第1四半期の連結業績(2024年4月1日~2024年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	3,143	△1.9	△176	—	△204	—	△209	—	△171	—
2024年3月期第1四半期	3,203	4.7	△129	—	△157	—	△158	—	△124	—

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 △165百万円(—%) 2024年3月期第1四半期 △127百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	△4.90	—
2024年3月期第1四半期	△3.57	—

(注) EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	8,620	1,058	12.3
2024年3月期	8,647	1,223	14.1

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 1,058百万円 2024年3月期 1,223百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	—	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	0.00	—	1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日~2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,000	1.2	370	67.6	260	157.8	230	125.2	120	—	3.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2024年5月15日公表の2025年3月期連結業績予想に、「EBITDA」の業績予想を追加しております。

なお、この追加による「売上高」「営業利益」「経常利益」「親会社株主に帰属する当期純利益」「1株当たり当期純利益」の予想数値の変更はありません。

(参考) EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費

2024年3月期通期 220百万円(△45.8%)

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期1Q	35,830,058株	2024年3月期	35,830,058株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2025年3月期1Q	954,469株	2024年3月期	954,469株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2025年3月期1Q	34,875,589株	2024年3月期1Q	34,873,189株
------------	-------------	------------	-------------

当社は「株式給付信託(BBT)」を導入しており、株主資本に自己株式として計上されている「株式給付信託(BBT)」に残存する自社の株式は、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。また1株当たり純資産額の算定上、期末発行株式総数から控除する自己株式に含めております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・決算補足説明資料を速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における国内経済は、雇用や所得環境の改善、インバウンド需要の拡大効果などから、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、原材料価格の高騰や為替変動等による物価上昇、人件費の高騰等により、景気の先行きは、依然として不透明な状況が続きました。

このような状況の下、当社グループは、2024年5月15日付で公表した「2024年3月期決算短信」に記載の通り、当社グループの果たすべき使命（ミッション）を「豊かさと彩りあるライフスタイルを創造し続けます」とし、2030年をゴールとしたビジョンを「従業員が投資したくなる会社へ」と決めました。その上で、「中期経営計画～Tsunageru2027～」を公表し、2025年3月期からの3年間においては、経営基盤のさらなる充実を図る時期と位置付け、①人的資本をより活かす経営、②既存事業の収益安定化、③資本コストや株価を意識した経営への取り組みを開始しました。

また当社は、「中期経営計画～Tsunageru2027～」に記載のとおり、当社グループの重要な成長戦略として「事業承継型M&Aの推進」を掲げております。今後、係るM&A戦略を積極的に推進していくに当たり、のれんの発生及びのれん償却が業績に大きな影響を与える可能性があります。当社では詳細なデューデリジェンスを行い適切な価値算定を実施した上で、将来の超過収益力を見込んだグループの成長を図っていく方針であることを踏まえ、通常の損益計算書の業績のほか、M&Aに際して発生するのれん償却の影響を除いた指標である「EBITDA」を当社グループの重要な経営指標のひとつとして、毎四半期ごとに開示することといたしました。

当第1四半期連結累計期間につきましては、例年通り、和装宝飾事業が第2四半期以降に大型展示販売会を多く予定していることやその他の事業においても季節的な要因から、年間を通じて売上高がもっとも低くなる期間となっています。

このような中、引き続き、教育事業が順調に推移し、加えて、2023年12月にグループ入りした学習塾を運営する株式会社灯学舎が当四半期の売上高増に寄与しました。売上構成比の約7割を占める和装宝飾事業については、収益安定化に向け、来店顧客の増加を目指し、着物メンテナンスサービスや展示販売会の集客施策等の強化を推進したことで、回復基調が見えてきました。一方で、受注商品に対する商品加工や検品作業の遅れが生じた影響等により、売上高は前年をやや下回る結果となりました。美容事業については、高単価サロンの来店客数の増加や不採算店舗の閉鎖による固定費削減等により、収益の改善に繋がりました。

また、中期経営計画の重点取り組みの一つである「人的資本をより活かす経営」においては、当社グループ全体で強固な組織基盤の構築に向け、引き続き、積極的な採用活動および人材教育・研修の強化を実行するとともに、柔軟な働き方、ワークライフバランスの促進や各種教育システム、人事制度の見直し等に取り組んでおります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の連結業績は下記のとおりとなりました。

〈連結業績〉

単位：百万円

	2024年3月期 第1四半期 (累計)	2025年3月期 第1四半期 (累計)	増減額	増減率
売上高	3,203	3,143	△59	△1.9
EBITDA	△129	△176	△47	—
営業損失	△157	△204	△47	—
経常損失	△158	△209	△50	—
親会社株主に帰属する四半期純損失	△124	△171	△46	—

(※) EBITDA = 営業利益(または営業損失) + 減価償却費 + のれん償却費

EBITDAに含まれるのれん償却額は14百万円(前年同期は14百万円)であり、主に教育事業子会社の取得に係るのれんであります。

なお、四半期損益につきましては、損失計上となっておりますが、通期計画に対しては、概ね計画通りの推移となっております。

セグメント別の業績は、次のとおりです。

・美容事業

美容事業においては、不採算店舗の閉鎖により、前年同期比で4店舗減少しましたが、新規来店客数が増加し、再来店客数も改善傾向で推移しました。また、出店エリアの顧客層の変化に対応し、店舗業態の転換を1店舗実施しました。以上の結果、売上高は4億81百万円（前年同期比0.7%減）となりました。損益面については、不採算店舗の閉鎖による固定費の削減効果に加え、社内教育の強化によりスタイリストが増加し、稼働率の改善や来店客数の増加等も見られ、セグメント利益は10百万円（前年同期はセグメント損失1百万円）と黒字に転換しました。

美容事業では、引き続き、社員教育の強化による一人当たり生産性の向上、新メニューの導入等によるサービス単価の向上に加え、出店エリアの顧客特性に合わせた店舗業態への転換やFC化等を推進し、収益の拡大を図ってまいります。

・和装宝飾事業

和装宝飾事業においては、着物のメンテナンスサービスの強化、展示販売会における集客強化等に注力した結果、受注は回復基調で推移しました。一方で、不採算店舗の閉鎖による2店舗の減少や商品加工及び検品作業の遅れが生じた影響により、売上高は20億92百万円（前年同期比5.8%減）となりました。損益面については、売上高減少による売上総利益の低下等により、セグメント損失は1億63百万円（前年同期はセグメント損失96百万円）となりました。

和装宝飾事業では、時代に沿った店頭商材の強化や「前楽結び着方教室」の開催を通じて、着物ファンの拡大を推進しております。また、各店舗や各エリアにおいては「きもの会」を企画し、お客様がきものを着て楽しむ機会を積極的に提供しております。引き続き、お客様へのソフトと価値の提供を強化し顧客満足度の向上を図ってまいります。

・DSM事業

DSM事業においては、販売員や顧客の高齢化等により依然厳しい状況が続く中、拠点の統廃合を実施した影響や販売員稼働数の低下等もあり、売上高は1億87百万円（前年同期比9.7%減）となりました。損益面においては、拠点統廃合による固定費の削減、コスト管理の強化等により、セグメント損失は18百万円（前年同期はセグメント損失18百万円）と前年水準を維持しました。

DSM事業では、引き続き、顧客数を増やすための紹介キャンペーンの実施や休眠顧客の深耕開拓、さらに提案商品や動員企画の見直し等を図ることで販売員稼働数の向上に繋げ、収益確保に努めてまいります。

・教育事業

教育事業においては、引き続き、株式会社マンツーマンアカデミーおよび東京ガイダンス株式会社が順調に推移いたしました。加えて、2023年12月に教育事業の3社目として新たにグループ入りした株式会社灯学舎が期初より寄与したことにより、売上高は3億5百万円（前年同期比47.8%増）と大きく伸長しました。損益面については、既存2社の増収効果や安定したコスト管理等により、セグメント損失は10百万円（前年同期はセグメント損失14百万円）と改善いたしました。

教育事業では、「スクールIE」のブランド特色を活かし、他社差別化を図るとともに、キャリアアップ研修の充実やさまざまな育成プログラムなど人材育成にも注力してまいります。また、オンライン教育の充実を推進し、さらなる顧客満足度向上に繋げ、安定的な収益確保に努めてまいります。

・その他の事業

その他の事業については、株式会社ヤマノセイビングの前払い式特定取引業による手数料収益、一般社団法人日本技術技能教育協会の着物着付け教室の運営収益、およびリユース事業を営む株式会社OLD F L I Pの収益が含まれています。当四半期においては、株式会社OLD F L I Pの減収の影響により、売上高は76百万円（前年同期比6.5%減）となりました。損益面については、株式会社OLD F L I Pにおいてコスト構造の見直しを進めた結果、セグメント損失は7百万円（前年同期はセグメント損失20百万円）と改善しました。株式会社OLD F L I Pについては、拡大が期待されるリユース市場に対し、キャンペーン販売やSNSを活用したマーケティングの強化に加え、回収品に新たな付加価値を付けたアップサイクル商品の販売を強化し、収益の改善に取り組んでまいります。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて26百万円減少し86億20百万円となりました。これは主に現金及び預金が1億46百万円減少、売掛金が1億43百万円減少し、商品が2億9百万円増加、繰延税金資産が43百万円増加したことによるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて1億38百万円増加し75億62百万円となりました。これは主に、電子記録債務が81百万円増加、前受金が1億95百万円増加し、短期借入金が40百万円減少、長期借入金が82百万円減少したことによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1億65百万円減少し10億58百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失計上による利益剰余金1億71百万円の減少によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期より、当社グループの重要な経営指標のひとつである「EBITDA」の業績予想を新たに追加して開示しております。

なお2024年5月15日公表の2025年3月期「売上高」「営業利益」「経常利益」「親会社株主に帰属する当期純利益」「1株当たり当期純利益」の業績予想については変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,732,021	2,585,103
売掛金	2,551,663	2,407,998
商品	1,338,134	1,547,849
貯蔵品	188	169
その他	255,047	261,295
貸倒引当金	△11,836	△11,825
流動資産合計	6,865,218	6,790,589
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	741,757	741,703
減価償却累計額	△494,764	△494,273
建物及び構築物(純額)	246,992	247,430
工具、器具及び備品	208,970	208,727
減価償却累計額	△190,570	△190,082
工具、器具及び備品(純額)	18,399	18,644
土地	36,511	36,511
リース資産	88,791	88,791
減価償却累計額	△72,850	△74,901
リース資産(純額)	15,940	13,889
有形固定資産合計	317,844	316,476
無形固定資産		
のれん	338,298	322,544
ソフトウェア仮勘定	10,800	33,840
その他	14,812	13,259
無形固定資産合計	363,911	369,644
投資その他の資産		
投資有価証券	132,716	138,816
長期貸付金	6,948	6,556
繰延税金資産	79,897	123,608
敷金及び保証金	831,500	828,486
その他	71,173	68,353
貸倒引当金	△22,048	△21,763
投資その他の資産合計	1,100,188	1,144,057
固定資産合計	1,781,944	1,830,177
資産合計	8,647,162	8,620,767

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	964,886	988,429
電子記録債務	719,643	800,688
短期借入金	1,340,000	1,300,000
1年内返済予定の長期借入金	413,580	374,195
未払金	585,469	566,987
前受金	1,196,582	1,391,669
未払法人税等	10,317	3,476
賞与引当金	28,524	55,241
株主優待引当金	5,650	5,650
資産除去債務	19,539	15,396
その他	275,981	260,262
流動負債合計	5,560,174	5,761,996
固定負債		
長期借入金	1,462,113	1,379,454
長期末払金	20,043	17,723
退職給付に係る負債	22,655	23,863
役員株式給付引当金	33,061	33,061
繰延税金負債	2,135	4,808
資産除去債務	288,921	287,522
その他	34,531	53,819
固定負債合計	1,863,461	1,800,252
負債合計	7,423,635	7,562,248
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	178,374	178,374
利益剰余金	1,181,355	1,010,347
自己株式	△91,497	△91,497
株主資本合計	1,278,233	1,107,225
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△54,706	△48,706
その他の包括利益累計額合計	△54,706	△48,706
非支配株主持分	-	-
純資産合計	1,223,527	1,058,519
負債純資産合計	8,647,162	8,620,767

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	3,203,449	3,143,798
売上原価	1,609,667	1,609,961
売上総利益	1,593,781	1,533,837
販売費及び一般管理費	1,750,944	1,738,285
営業損失(△)	△157,163	△204,447
営業外収益		
受取利息及び配当金	269	192
受取地代家賃	136	0
助成金収入	5,055	2,569
その他	2,233	2,195
営業外収益合計	7,693	4,957
営業外費用		
支払利息	5,139	6,202
障害者雇用納付金	2,050	2,575
その他	1,927	1,317
営業外費用合計	9,117	10,094
経常損失(△)	△158,586	△209,584
特別利益		
固定資産売却益	-	2,727
特別利益合計	-	2,727
特別損失		
固定資産除却損	0	0
店舗閉鎖損失	-	530
その他	-	1,272
特別損失合計	0	1,802
税金等調整前四半期純損失(△)	△158,586	△208,660
法人税等	△34,029	△37,651
四半期純損失(△)	△124,556	△171,008
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△124,556	△171,008

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純損失(△)	△124,556	△171,008
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,609	6,000
その他の包括利益合計	△2,609	6,000
四半期包括利益	△127,166	△165,008
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△127,166	△165,008
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却額（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれん償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却額	13,510千円	13,308千円
のれん償却額	14,095	14,293

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	美容	和装宝飾	D S M	教育	計
売上高					
顧客との契約から生じる収益	484,934	2,182,165	208,158	206,755	3,082,014
その他の収益(注4)	—	39,972	—	—	39,972
外部顧客への売上高	484,934	2,222,138	208,158	206,755	3,121,987
セグメント間の内部売上高又は振替高	11	—	—	—	11
計	484,945	2,222,138	208,158	206,755	3,121,998
セグメント損失(△)	△1,941	△96,493	△18,138	△14,175	△130,749

	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高				
顧客との契約から生じる収益	81,461	3,163,476	—	3,163,476
その他の収益(注4)	—	39,972	—	39,972
外部顧客への売上高	81,461	3,203,449	—	3,203,449
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,379	1,390	△1,390	—
計	82,841	3,204,839	△1,390	3,203,449
セグメント損失(△)	△20,401	△151,150	△6,012	△157,163

- (注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントであるリユース事業及びその他の事業を含んでおります。
- 2 セグメント損失(△)の調整額△6,012千円には、のれん償却額△13,701千円、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用7,473千円、棚卸資産の調整額△0千円及びセグメント間取引の消去216千円が含まれております。全社収益は各グループ会社からの経営指導料等であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 3 セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。
- 4 その他の収益は、顧客と割賦契約を締結する場合に生じる割賦手数料収益であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	美容	和装宝飾	DSM	教育	計
売上高					
顧客との契約から生じる収益	481,555	2,056,541	187,985	305,485	3,031,568
その他の収益(注4)	—	36,081	—	—	36,081
外部顧客への売上高	481,555	2,092,623	187,985	305,485	3,067,649
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	481,555	2,092,623	187,985	305,485	3,067,649
セグメント利益又は損失(△)	10,336	△163,329	△18,696	△10,536	△182,225

	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高				
顧客との契約から生じる収益	76,148	3,107,717	—	3,107,717
その他の収益(注4)	—	36,081	—	36,081
外部顧客への売上高	76,148	3,143,798	—	3,143,798
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,225	1,225	△1,225	—
計	77,374	3,145,024	△1,225	3,143,798
セグメント利益又は損失(△)	△7,484	△189,710	△14,737	△204,447

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントであるリユース事業及びその他の事業を含んでおります。

2 セグメント損失(△)の調整額△14,737千円には、のれん償却額△14,293千円、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用△660千円、棚卸資産の調整額0千円及びセグメント間取引の消去216千円が含まれております。全社収益は各グループ会社からの経営指導料等であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

4 その他の収益は、顧客と割賦契約を締結する場合に生じる割賦手数料収益であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。